

はせさんず

2011 秋号 NO.55

ニュース

2011年9月15日(木)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 坂口 郁子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620



デイホームの床改修工事
 フローリングにしました
 東京都共同募金の援助で完成

9月3～6日の4日間でデイホームの床をカーペットから花梨材に張り替える工事を実施。木の温もりを感じるフロアとなり利用者がゆっくりくつろげるデイホームとなるよう日々の活動を充実していきます。
 このフロアは、たすけあい活動の集いにも利用しており、リフレッシュした楽しい場になることでしょう。



仮設住宅前の
 さわやかテント

はせさんずは、公益財団法人さわやか福祉財団が東日本大震災の被災地支援のひとつとして行う「さわやか活動in雄勝」に協力。8月20日から9月3日までの15日間、坂口理事長をはじめ、はせさんずのスタッフが他団体の協力者とともに宮城県石巻市の雄勝地区で活動しました。棧敷洋子、三浦久美子、鈴木敦子、佐藤悟、青木賢一の5人が参加。

さわやか活動in雄勝 石巻での被災地支援に協力

これに先立ち、坂口理事長は8月11日と12日に、さわやか福祉財団の先発隊に加わって現地を訪問。支援に必要な物資の調達なども行いました。今回の活動の目的は、避難所から仮設住宅へ移った人を対象に「さわやかテント喫茶」を開き、最近の生活の様子を聞いたり、不足している物の調達を手伝ったりすること、さらに9月末から2泊3日で行うの参加者を募集することです。



かき氷が大人気

スタッフは仙台の駅前からレンタカーを運転して石巻へ移動し、そこを拠点に雄勝地区にある5か所の仮設住宅(地図●印)を順番にまわりました。場所によっては支援の受け入れに消極的なところもありましたが、ひきこもりがちな仮設住宅の暮らしを少しでも変えたいとスタッフがそれぞれ工夫しながら活動をしました。さわやかテントでは、かき氷、コーヒードリンク、ビールなどを用意して、皆の交流の場を提供。野菜が不足しているところでは、ネギやジャガイモなどを一軒ずつ配って喜ばれました。

おかつ広場
 開設のおしらせ
 さわやかテントで
 自由にくつろいでください
 大人気で大人気
 ちびきつりめきで
 楽しもう
 9月15日(木)～16日(金)
 10時～16時
 大田区民協働の被災地支援センター
 大田区民協働の被災地支援センター
 大田区民協働の被災地支援センター



地元に住職さんと協力して
 流しそうめん

東北弁で話してうちとけることができた、津波から逃げだした話など聞いた、「俺だけじゃねえ、みんな何もかもなくなつた」とつらい話を聞きながら、高年齢者が「つらい、つらい」とつぶやいた声が残ります。今後は、物資だけでなく心のケアを考へたり、このような交流の場に出てこれない人たちに對して丁寧な個別訪問を行うことが必要で、長いおつきあいになりそうです。



憂さを忘れる
 スイカわり

大田区と区民協働の被災地支援

大田区は震災1月後の4月から被災地支援のためのボランティア調整センターを区民活動支援施設micsにおた(消費者生活センター)に設置。はせさんずからは矢嶋と佐藤が運営委員として参加しています。

まず、東松島市の汚泥掻き出しのため、区内のバス会社の協力で大田区民協働の被災地支援センターを確保し3泊4日活動。このバスツアーは9月現在もずっと続けられています。8月末までに延べ人数で2145名が参加。

一方、現地から大田区への避難者は約250名。6月は蒲田温泉招待、7月は羽田空港見学、8月は平和記念イベントなど、月1回交流会を開催しています。支援ボランティアによる運営委員会では、①レク・イベント、②家族を応援する、③広報、④情報、⑤地域、⑥福祉、⑦福島原発被災調査支援などの分科会を中心に活動。第7分科会では、南相馬の障害者が作業所などの施設に通えるよう移送手段をつくるための助成金を申請し、審査が通ったところ。避難者への相談会も実施しています。

被災地支援は息長く続けていく必要があります。
 (矢嶋早苗)

ヘルパー研修会

6月25日(土) 池上会館中研修室にて

23年度第1回ヘルパー研修会は、済生会神奈川県病院口腔外科の歯科医師、後藤陽子先生を迎えて開催、一口腔ケアについて学びました。参加者は27名。

口腔ケアは単なる口の清潔だけでなく、嚥下の助けと



マイクで説明する後藤先生



もなる、身体の健康には欠かせない大切なケアです。後藤先生は口腔内の写真を豊富に紹介しながら、ケアのポイントを説明したり、器具の利用方法を実演したりして、利用者に対するケアのしかたを具体的にわかりやすく指導。口腔ケアが難しい利用者へのサービス向上につながる、大変有意義な研修となりました。

移送サービス活動日誌

吉田安男

8月23日、第19回移送活動者安全運転研修会「もつと減らせる交通事故」を池上警察署交通課の協力により移送活動会員ほか17名の参加のもと、開催。坂口理事長の開会挨拶で始まり、研修は池上警察署交通課佐藤警部補・中戸川巡查長により進行しました。

最初にプロドライバーからみたもつと減らせる交通事故と題し、事故はちよつとした不注意・運転マナーから発生するとの運転注意喚起事例ビデオによる研修。次に、池上警察署管内における最近の事故件数・事例の報告、そ

れから警視庁発行の「みんなの交通ルール」パンフレットに沿った各種の交通ルールについての説明がありました。質疑応答では、管内交差点でのわかりにくい信号機について、事故発生時の警察への連絡・対応について等々の活発な質疑がなされました。近況報告・交換では、新人活動者とベテラン活動者からそれぞれの近況が述べられ、また利用者へのシートベルト着用励行・均一なサービス対応方法についての意見交換等々がなされました。最後に安全運転管理責任者の大澤理事より、ユーモアあふれるコメントと出席者名の連呼ならびに謝意による閉会の挨拶で終了。

2012年パラアートカレンダー販売

去年はじめての試みとして「パラアートカレンダー」を販売したところ、多方面から購入申し込みがありました。手芸や絵画制作を通じて、障害のある人が楽しい時間を過ごしたり、作品発表の場を広げて次の創作活動へつなげていったりすることは、支援している私たちにとっても大きな喜びです。また、次の創作活動への資金づくりの一助になればと願っています。今年もまた独創的なデザインでお届けします。1部700円、予約受付10月末より。



事務局だより

9月から土曜の事務局体制が変わります

会員制事務局は月曜から金曜まで開局、土曜は休みになります。土曜にはチケットの購入や精算はできませんので、ご注意ください。移送サービスなどの活動は従来どおり土曜も行っていきます。また、介護保険事業の当番職員は事務局に出勤していただきますので、連絡事項などは出勤している職員にお話しください。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

はせんずすにきて

青木賢一

前職から心機一転、今年から勤めています。はせんずすでは、会員制サービスと介護保険サービスによって、地域に住まいの方々、幅広くきめ細かい助け合い活動が行われていますが、私の仕事は会員制サービスで発生する会計、チケット管理などの事務処理と、デイホームの運転手として利用者の送迎を担当。休日には日なたぼっこやぶらぶら散歩を楽しんでいます。依頼があれば障害のある方の移動支援サービスもしています。障害者のお付き合いには感動を覚えることすらあります。

市民後見人

フォロアアップ講座

判断力を失った高齢者や高齢化した障害者のために、お金の管理や日常生活が回るように支えるのが市民後見人の役割です。昨年の講座修了生に実力を付けてもらうため、今年度は4回のフォロアアップ講座を開催。8月の講座では、これから市民後見人をひき受けていくためのサポート体制について活発に議論されました。

はせんず各部門スタッフより 聞いて！ 聴いて！

<p>会員制たすけあい活動 東日本大震災をきっかけにたすけあい活動の必要性を改めて感じています。人らしい生活をするための絆といってもよいもの。はせんずの活動者や利用者は、糞谷、田園調布から山王、馬込まで会員の輪が広がっています。顔が見えて安心してサービスを任せられるたすけあい、介護タクシーとは違う移送サービスをもっともっと広げていきたいものです。地域の皆さんがもっと笑顔になれるように！ (大澤恵美子)</p>	<p>ヘルパーステーション 身体・知的障害者の通所更生施設で2日間の研修中、木工・染色班の制作補助に配属されて、利用者が個々のスキルを十分に発揮し、木製の踏み台やきれいに染色をした手ぬぐい等のすばらしい作品を作りあげることに感動！ある利用者はこの施設で「生きがい」や「楽しみ」を見つけられる話をしてくれました。私も利用者から「生きがい」や「楽しみ」を見つけれられたと言ってもらえるサービスをめざします。(山田雅也)</p>	<p>ケアサポート 住み慣れた地域の中で、高齢者が安心して生活していくためには介護保険制度の利用だけでは、決して十分とはいえません。介護保険のサービスは、一日の生活の中の「点」のサービス、24時間の生活をすべて支えるものではありません。点と点の間をつないでいくのは、地域の一人ひとり人の「目」と「手」です。今ある地域のつながりをいかに強固なものにしていくかが今抱えている私たちの大きな課題。(牧野晴美)</p>	<p>デイホーム デイホームの職員でバンドを結成、夏祭りの催しに出演しました。日頃、利用者が童謡や唱歌、歌謡曲などを楽しく歌う様子から、音楽が皆様の共通の喜びにつながると考えたからです。結成間もないつたない職員バンドでしたが、リズムに合わせ体中で楽しむ利用者の様子は私たちにも勇気を与えてくれました。心温かい拍手や言葉をかけていただき、やってよかった、楽しい一時を過ごすことができ感謝です。(風間孝之)</p>	<p>元気かい 英語サークルを始め、1年たちました。リーダーは欧州滞在経験の長い加藤さん。教えるのは初めて。試行錯誤で始めやっとなペースがつかめてきました。教材は中学1年の基礎英語を中心に行っています。「現在の中学1年の英語をほぼマスターできたらまずは海外旅行で不便はしないレベルですよ」と言われメンバーが休まずがんばっています。1回の会費がワンコイン500円で気軽に参加できるのも特色です。(井元一彦)</p>
---	--	--	--	---